

# 3

## 出版・広報

自主研究や主催研修の成果を幅広く知っていただけるよう、旅行・観光に関する各種出版物や研修記録を発刊しています。また、機関誌の刊行やセミナーの開催を通じて、観光文化の振興に努めています。

# 旅行者動向

(公財)日本交通公社独自の「JTBF旅行者動向調査」\*の結果を基に発行している旅行者データ集。日本人の観光レクリエーション旅行の実態と希望、旅行に対する意識について、さまざまな切り口から分析を行っている。

観光レクリエーション旅行の実態については家族旅行や友人旅行などのセグメント別に旅行内容を詳細分析。また今後希望する旅行については30以上の旅行タイプ別に地域別ランキングを集計している。

また、「JTBF旅行者動向調査」が10年目を迎えたことを受け、「旅行者動向 別冊 旅行者の行動と意識の変化1999～2008」と題して、旅行マーケットの10年間の変化を分かりやすく整理し発刊した。

\*「JTBF旅行者動向調査」は、2011年度版作成のために実施した2010年調査よりインターネット調査へ変更し、同時に調査時期も変更した。

2009年調査…10月実施

2010年調査…トリップ調査を12月、オムニバス調査を7月、12月に実施

## 旅行者動向2010

### 目次

#### ■第1章 旅行市場の全体像

- 1.1 旅行市場の構造
- 1.2 観光レクリエーション旅行の実態
- 1.3 特定の旅行スタイルの経験と参加意向

#### ■第2章 旅行先別にみる旅行市場の実態

- 2.1 都道府県別にみる観光レクリエーション旅行の実態
- 2.2 観光地別にみる旅行の経験と意向

#### ■第3章 行ってみたい旅行

- 3.1 行ってみたい旅行タイプ
- 3.2 行ってみたい旅行先

#### ■第4章 旅行に対する意識

- 4.1 旅行の動機
- 4.2 情報収集源

- 担当者(編集) 黒須宏志
- 頒布料 5,000円(本体4,762円)
- A4判 103ページ



## 旅行者動向2011

### 目次

#### ■第1章 旅行マーケットの全体像

- 1.1 旅行マーケットの構造
- 1.2 観光旅行マーケットの実態

#### ■第2章 旅行先別にみる旅行マーケットの実態

- 2.1 都道府県別にみる旅行マーケットの実態
- 2.2 観光地別にみる旅行の経験と意向

#### ■第3章 行ってみたい旅行

- 3.1 行ってみたい旅行タイプ
- 3.2 行ってみたい旅行先

#### ■第4章 旅行に対する意識

- 4.1 旅行の動機
- 4.2 情報収集源

- 担当者(編集) 黒須宏志・渡邊智彦
- 頒布料 5,000円(本体4,762円)
- A4判 95ページ



# 旅行者動向 別冊

## 旅行者動向 別冊 旅行者の行動と意識の変化 1999～2008

### 目次

#### ■第1章 旅行マーケットの規模の推移

- 1.1 国内旅行
- 1.2 海外旅行
- 1.3 家事・帰省旅行における変化とその要因

#### ■第2章 観光レクリエーション旅行市場の動向

- 2.1 同行者
- 2.2 宿泊施設
- 2.3 交通機関
- 2.4 平日・休日とシーズナリティー
- 2.5 旅行距離と泊数
- 2.6 旅行費用
- 2.7 旅行タイプ
- 2.8 発地・着地別に見た市場

#### ■第3章 旅行の動機と行ってみたい旅行

- 3.1 旅行の動機
- 3.2 旅行に対する好感度
- 3.3 若年層の旅行に対するモチベーションの低下と背景
- 3.4 行ってみたい旅行タイプ
- 3.5 特定の旅行スタイルの経験と参加意向
- 3.6 旅行をしなかった理由
- 3.7 情報収集源

#### ■第4章 観光地に対するイメージ

- 4.1 旅行タイプ別の行ってみたい旅行先
- 4.2 観光地イメージの変化

- 担当者（編集） 黒須宏志・相澤美穂子
- 頒布料 6,300円（本体6,000円）
- A4判 155ページ



# 旅行年報

直近1年間の旅行・観光市場の動きと業界を取り巻くあらゆるデータ、出来事を（公財）日本交通公社の研究者が専門分野ごとに執筆を分担し取りまとめた。「旅行年報1981」以来、日本人の国内・海外旅行、外国人の訪日旅行、観光産業、国内観光地、観光政策などさまざまな角度から、旅行・観光市場に関するデータとトピックを集め記録・整理、毎年発行している。

「旅行年報2011」では、最近動向が注目されている観光地のタイプに合わせて、第Ⅲ編の項目を一部見直した。

## 旅行年報 2010

### 目次

#### ■第Ⅰ編 旅行者の動き

- I-1 2009年と2010年の旅行市場
- I-2 日本人の国内宿泊旅行
- I-3 日本人の海外旅行
- I-4 訪日外国人旅行

#### ■第Ⅱ編 観光産業の動き

- II-1 旅行業
- II-2 宿泊業
- II-3 運輸業
  - 1 鉄道
  - 2 道路交通
  - 3 航空

#### ■第Ⅲ編 観光地の動きと観光政策

- III-1 観光地
  - 1 温泉観光地
  - 2 山岳・高原リゾート
  - 3 海浜レクリエーション
  - 4 ゴルフ場
  - 5 アウトドア活動
  - 6 都市観光・コンベンション
  - 7 観光施設・テーマパーク
  - 8 産業観光
  - 9 農山漁村観光
  - 10 自然公園・世界遺産
  - 11 着地型旅行の商品化と販売
- III-2 観光政策

#### ■資料編

- 資料-1 地域別整備動向
- 資料-2 旅行年表
- 資料-3 付属統計表

- 担当者（編集） 有馬義治
- 頒布料 6,300円（本体6,000円）
- A4判 86ページ



## 旅行年報 2011

### 目次

#### ■第Ⅰ編 旅行者の動き

- I-1 2010年の旅行市場
- I-2 日本人の国内宿泊旅行
- I-3 日本人の海外旅行
- I-4 訪日外国人旅行

#### ■第Ⅱ編 観光産業の動き

- II-1 旅行業
- II-2 宿泊業
- II-3 運輸業
  - 1 鉄道
  - 2 道路交通
  - 3 航空

#### ■第Ⅲ編 観光地の動きと観光政策

- III-1 観光地
  - 1 温泉観光地
  - 2 農山漁村観光
  - 3 都市観光
  - 4 アウトドア・レクリエーション
  - 5 文化を活かした観光
  - 6 MICE
  - 7 観光施設・テーマパーク
  - 8 観光の情報発信
  - 9 着地型旅行の商品化と販売
  - 10 観光資源の保全と活用
- III-2 観光政策

#### ■資料編

- 資料-1 旅行年表
- 資料-2 付属統計表

- 担当者（編集） 有馬義治
- 頒布料 6,300円（本体6,000円）
- A4判 81ページ



# Market Insight

日本人海外旅行マーケットの構造的な変化とその要因を詳細に解説したレポート。最新の市場動向をカバー。㈱日本交通公社の独自調査を基に、変化の下に働く中長期的ダイナミズムを明らかにしている。

## Market Insight 2010 日本人海外旅行市場の動向

### 目次

#### ■第1章 2009年の日本人海外旅行マーケット動向

2009年の海外旅行マーケット／休暇・観光目的のマーケット／性・年代別旅行者数／海外旅行消費額・泊数／方面別旅行者数／旅行手配形態

#### ■第2章 方面別マーケット動向

ヨーロッパ／北東アジア／東南アジア／北米／オセアニア／ハワイ、グアム、およびその他のデスティネーション

#### ■第3章 市場動向予測

2009年の回顧／2010年の展望／危機で変わるマーケット／航空キャパシティ

#### ■第4章 マーケット動向指標

主な経済社会指標および旅行取扱額／市場規模／出国率／方面別マーケット／旅費／旅行泊数／予約方法／情報源／宿泊施設／旅行タイプ／月別出国者シェア／同行者／旅行者の世帯収入／旅行者の階層帰属意識／満足度、再訪希望率／希望する旅行

#### ■付属資料

- 担当者（編集） 黒須宏志
- 定価 10,500円（本体10,000円）
- A4判 69ページ



## Market Insight 2011 日本人海外旅行市場の動向

### 目次

#### ■第1章 2010年の日本人海外旅行マーケット動向

2010年の海外旅行マーケット／性・年代別旅行者数／市場構造／旅行手配形態／方面別旅行者数／海外旅行消費額・泊数

#### ■第2章 方面別マーケット動向

ヨーロッパ／北東アジア／東南アジア／北米／オセアニア／ハワイ、グアム

#### ■第3章 市場動向予測

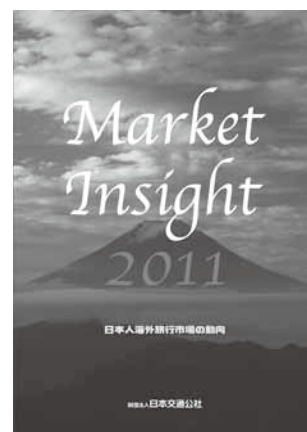
2010年の回顧／東日本大震災のインパクト／2011年の旅行者数見通し

#### ■第4章 マーケット動向指標

主な経済社会指標および旅行取扱額／市場規模／出国率／方面別マーケット／旅費／旅行泊数／予約方法／情報源／宿泊施設／旅行タイプ／月別出国者シェア／同行者／旅行者の世帯収入／旅行者の階層帰属意識／満足度、再訪希望率／希望する旅行

#### ■付属資料

- 担当者（編集） 黒須宏志
- 定価 10,500円（本体10,000円）
- A4判 73ページ



# 観光実践講座 講義録

## 平成21年度観光実践講座 講義録

### 地域主体の観光

#### ～身近な里海・里山で生きる～

2009年度実施の観光実践講座の講義録。メインテーマは「身近な里海・里山で生きる」。

講義内容は、いずれも地域の生業を、生業に携わる人々と協同しながら魅力あるプログラムへと発展させた観光実践論で、有益なヒントやエピソードが詰まっている。各講義に共通していたのは、目標は「地域の元気を取り戻す」ことであって観光客誘致そのものではない、ということ。また成功例は、行政職員であれ民間事業者であれ、地域への個人の“想いや志”に裏打ちされたものであることも重要な共通点だった。

同年6月実施の観光基礎講座の基調講演、長崎・平戸での新しい観光協会づくりと着地型旅行への意欲的な取り組み事例も併せて収録。

- 担当者 久保田美穂子、岡田美奈子
- 頒布料 3,150円(本体3,000円)
- A4判 94ページ



#### 目次

##### 講義 1 地域主体の観光の時代 ～コミュニティが主役へ～

講師：(財)日本交通公社 常務理事 小林英俊

##### 講義 2 「自立してこそ地域貢献」～規格外の「びわ」で集客、システムで活性化～

講師：南房総市商工観光部観光プロモーション課 副主幹  
(株)とみうら(枇杷倶楽部) 取締役 福原正和氏

##### 講義 3 島からの贈り物で「感幸」をめざす ～心の中にお土産を～

講師：海島遊民くらぶ代表/旅館「海月」女将 江崎貴久氏

##### 講義 4 観光庁発足で加速する観光政策と現場の今 ～観光立国下における観光の低迷～

講師：(財)日本交通公社 研究調査部長 梅川智也

##### 講義 5 里山と森林が人々を癒やし、元気にする ～グリーンツーリズムの先進地から～

講師：飯山市税務課 収税係長(前観光課 旅産業係長) 出澤俊明氏

##### 講義 6 緩やかでフラットな“地域企業”で身近な資源を事業化

～2年半で地域はここまで変わる～

講師：稲取温泉観光協会 事務局長 渡邊法子氏

##### 観光基礎講座 基調講演

着地型観光の確立を目指して ～平戸の試み

講師：(社)平戸観光協会 会長 籠手田恵夫氏

# 観光実践講座 講義録

## 平成22年度観光実践講座 講義録

### 街を活かす 街を楽しむ

2010年度実施の観光実践講座の講義録。自律的持続的なまちづくりが魅力の根源となっている千葉県香取市佐原や岐阜県高山市からじっくり学ぶ講義と、新たな目線でまちを楽しむサポートツールとしての自転車や携帯電話の活用、最新データに基づくインバウンドの実態など、今日的话题を取り入れた幅広い内容。地域活動の自発的な小さな芽を支援するシステムづくりに挑戦する三重県の取り組みにも注目。

また本書には、地元のB級グルメ「やきそば」に着目し、話題づくりに先攻して大きな観光の動きを生み出しまちを元気にした富士宮市の事例を併せて収録（同年6月に開催した観光基礎講座の基調講演）。

- 担当者 久保田美穂子、岡田美奈子
- 頒布料 3,150円（本体3,000円）
- A4判 100ページ



目次は、94ページの講座プログラム参照

## 平成23年度観光実践講座 講義録

### “つなぐ” “つながる” が生む 地域の新しい魅力

2011年度実施の観光実践講座の講義録。「高校生レストラン」はじめ、なぜ多気町では新しい魅力が次々と生み出され続けているのか、その背景や経緯を深く理解するために、本講座は初めて東京を離れて現場で開催した。

講演や視察・体験から共通して得られたのは、「共有できる夢を描く」「実現できる道筋を見せる」「自らが明るく楽しく本気で取り組むことで、皆を巻き込む」「“継続”を最初から考える」ということ。こうした“住民の未来へ託す想いや気持ち”が来訪者にも伝わり、その気持ちの連鎖が人を惹きつけていたのだ。

巻末には、「妖怪」をモチーフに次々と関連のイベントを仕掛け、商店もそのモチーフから独自の取り組みを展開している鳥取県境港市のまちおこしの事例を併せて収録（同年6月に開催した観光基礎講座の基調講演）。

- 担当者 久保田美穂子、吉澤清良
- 頒布料 3,150円（本体3,000円）
- A4判 114ページ



目次は、95ページの講座プログラム参照

# 先読み！マーケットトレンド

国内旅行市場のトレンド変化や市場構造についての新たな知見をとりまとめ、「先読み！マーケットトレンド」としてホームページで発信している（第十四話から第二十一話まで）。2010年度からは、訪日旅行市場の動向も分析の対象に含めた。

中心となるコンテンツは、旅行好きで周囲への影響力の強いオピニオンリーダー層（図2）を対象としたインターネット調査結果であり、毎年初頭に旅行市場動向の予測を公表している（図3）。また、同調査に追加したテーマ設問についての分析（食の魅力やスマートフォンによる情報収集等）も随時とりまとめ、発信を行ってきた。

なお、2011年3月の東日本大震災直後には、訪日旅行市場や国内旅行への影響についての分析レポートを作成し、迅速な情報提供を行った。

■担当者 塩谷英生、川口明子、相澤美穂子

図1 ホームページでの発信



図2 オピニオンリーダー層の概念図

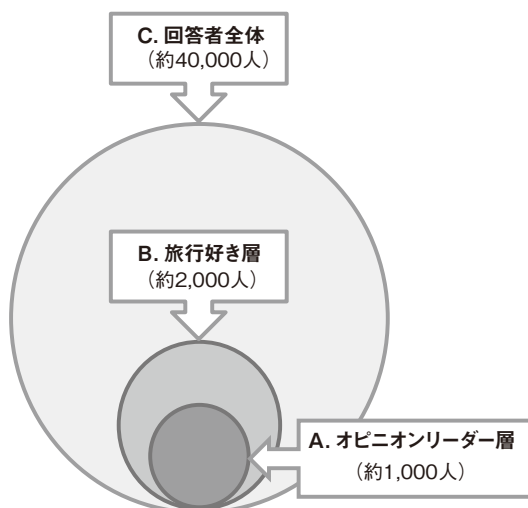
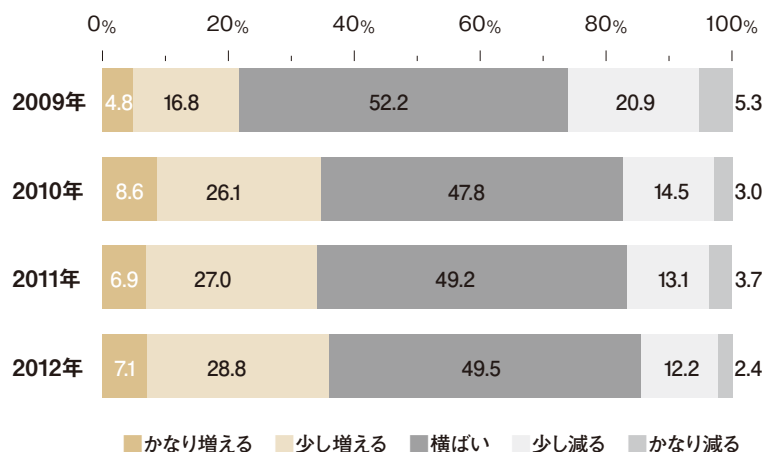


図3 1年間の旅行回数の増減





# 観光文化

旅や観光の文化に関する(公財)日本交通公社の機関誌。年6回、奇数月の20日に発行。

時代の動き、社会のニーズの把握に努め、情報提供・提言、意見・研究発表等の発信を編集方針としている。毎号特集を組み、第一線で活躍されている研究者・実践者の方が執筆。ほかにも連載を組み、幅広い視点から「観光文化」に光を当てている。

- 発行人 新倉武一 (207号まで) 志賀典人 (208号から)
- 頒布料 1,470円 (税込み)
- 編集人 外川宇八 (206号まで) 片桐美徳 (207号から) ● B5判32ページ (基本)



## 目次

第199号 (2010年1月20日発行)

特集: 広がれ日本のフットパス

- 巻頭言: 日本フットパス・システムの夢おこし/村山友宏
- 英国に学ぶフットパスの歴史とその魅力/市村操一
- 資源がない?資金がない!?人材がない!?どんな地域でもできるフットパスによる観光づくり
- 多摩丘陵フットパスの場合/神谷由紀子
- 地域を元気にする歩く道。フットパス/小川蔵
- 自然と文化のエコツーリズム。一カントリー・フットパスの魅力/ケビン・ショート

第200号 (2010年3月20日発行)

特集: 旅讃歌 一心のかて 旅で授かる生きる力

- 巻頭言: 旅の余白/林望
- 旅の人生・八十年。一五十年の紀行文の時代背景を語る/岡田春秋
- イギリスひとり旅。一積み上げてきた心の財産/清川妙
- 「青春」行き、鉄道旅へのいざない/野村正樹
- 日本の古代神話の世界を旅する/ケビン・ショート
- 旅育のすすめ。一旅で育む家族の絆、生きる力/村田和子

第201号 (2010年5月20日発行)

特集: 縄文文化と現代。三内丸山に学ぶ

- 巻頭言: 岡本太郎と縄文の発見/赤坂憲雄
- 縄文文化と次世代ツーリズム。一グリーンライフ・ツーリズムの可能性/石森秀三
- 三内丸山に見る縄文人の暮らし。一定住を支えた自然環境と社会的背景/西本豊弘
- 三内丸山遺跡の保存と活用。一世界遺産を目指す「JOMON」/岡田康博
- 三内丸山と市民を結ぶ。一「三内丸山縄文発信の会」発足とその諸活動/菊池正浩

第202号 (2010年7月20日発行)

特集: みなとまちの賑わい再生 一港とまちの一体化を!!

- 巻頭言: 文化と賑わいを呼んだ港町、そのパースペクティブな歴史に学ぶ視点/岡本哲志
- みなとまちの賑わい再生。一景観形成からの取り組み/東恵子
- 「みなとまちづくり」を推進する。一その現況と展望/橋間元徳
- 産・民・官・学が一体となって創出するみなとまちの賑わい/谷本典量
- みなとまちを交流の舞台に。一みなとまちの人情と魅力を語る/明戸真弓美

第203号 (2010年9月20日発行)

特集: 九州観光交流新時代 一花開くアジアの玄関

- 巻頭言: 九州におけるアジア誘客戦略/石原進
- 九州におけるアジア・インバウンドの拡大。一その課題と方策/千相哲
- 文化観光への視点。一博物館の役割/三輪嘉六
- 十一年目を迎えたAPU (立命館アジア太平洋大学)。一アジア太平洋地域の人材養成と未来創造を目指して/山神進
- 九州観光推進機構のアジア・インバウンド戦略/大江英夫

第204号 (2010年11月20日発行)

特集: 夜景観光のポテンシャル 一光のまちづくりへ

- 巻頭言: 快適で個性豊かな夜景づくり/面出薫
- 広がる夜景観光、そして未来へ。一「日本夜景遺産」誕生から「夜景サミット」まで/丸々もと
- 観光川崎の明日に期待して/斎藤文夫
- 大阪を「光と水」でブランディング。一水都大阪まちづくりの挑戦/室井明
- 街路の光環境によって街はどう変わるか?/角館政英

第205号 (2011年1月20日発行)

特集: 観光のフロンティアに挑む

- 巻頭言: 世界市場を前に怯むな/小林天心
- 信越トレイル開設に懸けた夢。一ロングトレイルがつなぐ人と地域/小山邦武
- 国際観光医療学会の発足。一日本版メディカルツーリズムの普及を目指す/中元隆明
- ふるさと会津の地域経営に取り組み。一農と食は最大の観光資源/本田勝之助
- 日本を世界にプロデュース。一多言語サイト「ジャパンガイド」の進化/楠めぐみ

第206号 (2011年3月20日発行)

特集: 自転車と地域振興

- 巻頭言: 自転車の旅の素晴らしさ/白鳥和也

- 観光における自転車の可能性について考える/小林成基
- 自転車で「走れば愉快だ宇都宮」。一自転車のまち宇都宮を目指して/小川恵太
- 世界に誇るサイクリングコースしなみの展望。一住民参画の自転車まちづくり/山本優子
- 『旅チャリ』で町に優しく、「旅」は楽しく。一JT B48と「旅チャリ」と/高知尾昌行

第207号 (2011年5月20日発行)

特集: 広がるオープンガーデン活動

- 巻頭言: 花と緑が生かす人と町の絆/石原和幸
- 広がるオープンガーデン活動
- 花と緑のまちづくり。一オープンガーデンの開催と観光の可能性/相田明
- オープンガーデンふかやかは輝く市民の力で/新井昭夫
- 花の力で/内倉真裕美
- 「オープンガーデン前線」を追いかけ!。一花・人・景観をつなげるオープンガーデン/松田清江

第208号 (2011年7月20日発行)

特集: 東日本大震災からの復興に向けたツーリズムの役割 一復興プランへの提言

- 巻頭言: 東北の復興は農漁業と観光から/増田寛也
- 震災復興とツーリズムの役割/西村幸夫
- 伝えたい故郷の景観。一阪神・淡路大震災からの復興の経験から/鳴海邦碩
- 北海道南西沖地震の奥尻島復興の経験から/新村卓実
- 中越大地震および中越沖地震からの観光復興
- 震災からの観光復興に向けてどのような対策を取ってきたか/高橋正

第209号 (2011年9月20日発行)

特集: 東日本大震災からの復興に向けて、人の動き、ツーリズムを創造する

- 一東北の持つ潜在的な「文化の力」を探る
- 巻頭言: 東北の「文化の力」のベクトルを「復興の力」に向ける
- 地域文化とコミュニティのアイデンティティは人の動きを生む/近藤誠一
- 「文化力」を「復元力」につなげる東北の震災復興/北原啓司
- 都市文化の力。一紡ぎ、つながり、復興へのパワーを生む/奥山恵美子
- 「絆」で広げる温泉の可能性/遠藤直人
- 地域に守られ飲み手に支えられる日本酒の文化
- 地産多消費から地産地消を目指して/菅原昭彦

第210号 (2011年11月20日発行)

特集: 日独交流150周年 一これまでの軌跡 観光や文化交流の在り方をめぐって

- 巻頭言: 相互交流で学び育む未来志向の日独関係/フォルカー・シュタンツェル
- 日独関係の変遷をたどって。一経験から見える両国の関係/久米邦貞
- 日本とドイツの文化交流、その心。一旅を通して感じる両国の本質/小塩節
- プロイセンが面白い。一明治維新を先導する日本人とプロイセン/川口マーン恵美
- 日独交流に見るフィン文化と観光/大島慎子

第211号 (2012年1月20日発行)

特集: 日本の森のエネルギー 一森づくり、森の文化と観光

- 巻頭言: いのちを守る森づくり
- 災害の瓦礫を使って観光資源にもなる「森の万里の長城」づくり/宮脇昭
- 森と山への信仰を取り戻す/安田喜憲
- 自然、森と人間の関係。一群馬県上野村に暮らして見えてくるもの/内山節
- 百年の交流、千年の森づくり「ドングリの森小学校」
- 長野県飯田市での「ふるさと森構想」実現と継続から見えるもの/井上弘司
- 癒しの森。長野県信濃町
- 豊かな自然と森が包み込む力が人びとのこころからだを元気にする/松木重博
- 白神山地の恵みを活かすエコツーリズムの推進
- 白神山地の保全と活用に向け動き出した「環白神」地域の取り組みから/大隅一志・吉谷地裕

第212号 (2012年3月20日発行)

特集: 九州新幹線全線開業で「九州はひとつ」

- 一開業後一年、九州ツーリズムの変化と期待される地域活性化への取り組みとは?
- 巻頭言: 九州新幹線全線開業。そこからつながる観光のネットワーク/唐池恒二
- 九州新幹線は「九州はひとつ」に向けて大きな弾みに
- 全線開業、地域連携して九州観光促進の展開を図る/段下倫
- 九州新幹線全線開業による新たな時代の「観光かごしま」の展開/鹿児島県観光交流局観光課
- 肥薩おれんじ鉄道 過去・現在・未来。一地域への鉄道の役割を果たすために/古木圭介

## 第11回 観光文化セミナー

# はじまりの奈良、めぐる感動

—平城遷都1300年祭の事業戦略と戦術

### 開催概要

- 日時：2010年4月27日（火）
- 場所：第一鉄鋼ビル B1D会議室
- 講師：平城遷都1300年記念事業協会  
チーフプロデューサー／福井昌平氏
- 担当者：外川宇八・渡邊サト江

参加者数 32人

講師の福井氏は、平城遷都1300年祭チーフプロデューサーとして活躍。1988年のシルクロード博以降、減少傾向にあった奈良県への「文化観光交流人口」創出を大きな狙いとして、「日本のはじまり奈良」を象徴し、体感する場を創造する「平城宮跡事業」を中心に2010年1年間でさまざまなプロジェクトが奈良県全体を会場に開催された。観光と教育を融合させた文化交流プロジェクト「参加体験学習」実施。遣唐使船の復元、バーチャルリアリティーのシアター、発掘・木簡作成、当時の服装レンタル等の体験、国営歴史公園として整備し、歴史文化拠点として遺跡・遺産・資産の価値を高めていく計画の復元施設（大極殿、朱雀門、東院庭園）等を舞台に、衛兵交代や雅楽コンサート等の「なりきり体験」プログラム、修学旅行や校外学習を積極的に受け入れて奈良県観光復活への起爆剤を目指す日本発本格的歴史インタープリテーション型の「平城宮跡探訪ツアー」を実施するほか、地域の価値に参加体験するイベント（大和路まほろばウォーク等）、社寺や国宝を巡る悠久の「歴史・美」との対話のための秘宝・秘仏の特別開帳や国際的視野での特別展、「東アジア未来会議2010」（国際級コンベンション）の連続開催等により、開始4カ月で宿泊客の大幅増加を記録。ソフト（130人の奈良検定一級定点ガイド、ガイドツアー、iPodで5カ国語対応セルフガイド）とハードを組み合わせた体験価値づくり、IT活用、産官学・市民の協働態勢により、歩く、あるいは自転車で巡る参加体験学習プログラムの開発が今後の奈良の活性化に貢献すると提案した。このプログラムの充実で奈良を元気にし、東アジアのなかで先進的な場所として奈良を位置付けていきたいと力強く締めくくった。



## 第12回 観光文化セミナー

# 港の景観形成と 美しいみなとまちづくり

### 開催概要

- 日時：2010年10月28日（木）
- 場所：第一鉄鋼ビル B1D会議室
- 講師：東海大学開発工学部  
感性デザイン学科教授／東恵子氏
- 担当者：外川宇八・渡邊サト江

参加者数 37人

講師の東氏は、まず歴史や時代のなかの地域性を読み取り、景観形成は地域の人たちの総合力で、と話し始めた。港の景観の魅力は、地理的条件等が影響し、多様な文化が風景に投影される。1988年、静岡県清水市内の「清水八景（好きな景観）」「嫌いな景観」の市民選択はどちらも港に集中。清水港利用促進委員会推薦の女性約20名が1年間かけて暮らしの視点から港を調査し、理想の姿を「レディス・マリナーレポート」で提案した。塩害のためペンキを頻繁に塗ることに着目し、色から与えるイメージ・色の効果を利用して快適性・活力・個性を高める「清水港・みなと色彩計画」を1991年に策定。周辺環境との関係も考慮するため、計画策定前に市民と港湾関係企業を対象にアンケートを実施した。港に一体感を与えるためにシンボルカラーをランドマーク的施設の一部に必ず使うこととし、機能のゾーニングとゾーンごとのカラー計画を策定、企業の自主的な塗り替えに向けてアドバイス。行政も積極的に協力した。1999年清水港開港100周年を機に港が市民の集まるエリアに変貌。5年後には8割近い市民が高く評価し、企業協力度も1991年の37%から2000年に83%に増加している。多くの賞を得、清水港には富士山を背景にした富国徳の風景が実現。清水港周辺の観光交流入込数は、開港100周年に当たる1999年の298万人が10年後には3倍近い846万人に増加。計画段階から地域住民や企業の意向の把握と配慮が大切で、地域の精神的一体感を醸成するシンボルカラーは景観の高質化に効果が高く、色彩への配慮は景観や環境への自発的な取り組みを促すと語った。また、「美しいみなとまちづくり」は地域特有のまちへの関心や愛着に結びつき、「MY CITY」意識を芽生えさせ、地域活性化につながると訴えた。



## 第13回 観光文化セミナー

# 茨城発の映画づくりから始まる地域づくり 「桜田門外ノ変」映画化と観光振興

—茨城の魅力在全国に発信

### 開催概要

- 日時：2011年4月26日（火）
- 場所：第一鉄鋼ビル B1D会議室
- 講師：茨城県広報戦略室  
室長補佐・総括／橘川栄作氏
- 担当者：片桐美徳・朝倉はるみ

参加者数 25人

講師の橘川氏は、茨城の陶芸家「板谷波山」の生涯を描いた2004年公開『HAZAN』に携わり、いろいろな人が関わることで映画の求心力に感動し映画をなにかに活用することを考えたが、観光の視点に立てなかった。県全体の全国への売り込みを考えていた2005年の翌年、NHKの方との縁で事が動き出す。水戸光圀公を映画にしても人は茨城に来ない。幕末の「桜田門外ノ変」にテーマを変え、関鉄之介の日記を基にした吉村昭の小説を原作に水戸藩志士の生きざまを映画化して観光客誘致を考えた。自由に動けるよう私人として映画づくりに関わる。2008年、映画化による地域の再発見・人を創る・愛着と誇りを創る・観光につなげる事業が多数の応募のなかから「地方の元気再生事業」に選ばれ、民間団体「『桜田門外ノ変』映画化支援の会」が補助金を受けて推進力が大きくなり、地域の機運醸成運動が展開。翌年、全国上映できる配給会社東映と組んで作業に突入し、佐藤純彌監督も水戸来訪時、「世界の視点で桜田門外ノ変を描いてほしい」との要請を応諾した。メインロケ地は茨城という監督との約束で、出資者水戸市から「観光地にする」と約して借りた千波湖畔に桜田門等のセットを製作。県出身の俳優起用で盛り上がるなか、野外ロケ地を観光資源に誘客を目指した。資金集め等の問題を克服し、地元関係者の協力で4月末に映画は完成。記念展示館も建てて公開されたオープンロケセットは観光につながった。水戸市と井伊大老の出身地である彦根市の市民団体交流も生み、東日本大震災後は彦根市が支援を継続。民間主導で地域が元気になり、行政もサポート役で応援した。「郷土愛・歴史・文化を、映画・観光施設を、観光につなげる」取り組みを次世代に継承することが必要と締めくくった。



# コミュニティ・ベースド・ツーリズム研究 ～世界の実践事例に学ぶ成功の鍵

観光には人や地域を元気にし、コミュニティを再生・発展させていく力がある、と考えられる。しかし観光を本当の意味で地域にとってプラスのものとしていくにはさまざまな課題が存在している。特に、地域コミュニティが観光にどのように関わっていくのかという点は重要なテーマだと考えられる。

当財団ではコミュニティが主体的に観光振興を行っていく在り方として、海外では既に知られてきている「コミュニティ・ベースド・ツーリズム」に注目、2006年より北海道大学観光学高等研究センターとの共同研究としてこのテーマに取り組んだ。

地域コミュニティが自律性を持って観光振興に取り組んでいる事例を広く海外に求め、中国貴州省のミャオ族、トン族を始めとする少数民族観光、保護と開発のバランスというテーマに対し「GNH（国民総幸福量）」という哲学を掲げて臨むブータン王国、更に伝統的コミュニティの価値観をベースとしながらグローバル時代の観光への対応に成果を挙げているニュージーランドのマオリによる観光の3つを研究対象とした。

フィールドスタディーを通じて、成功のためには「どうすればいいか」ということより、人々が「どうしてそれに取り組んだのか」という考え方のなかに、多くの知恵が隠されていることが浮き彫りとなった。いずれも海外の事例であるが、実践プロセスやものの考え方のなかに多くの普遍的な知恵が含まれている。本書は、これら3カ国を対象に行った現地視察、およびそれらを基にした論考を取りまとめたものである。

## コミュニティ・ベースド・ツーリズム研究 ～世界の実践事例に学ぶ成功の鍵

### 目次

#### はじめに

1. 今なぜコミュニティ・ベースド・ツーリズムか
2. フィールドスタディ
  - (1) 中国・貴州省
  - (2) ブータン王国
  - (3) ニュージーランド・マオリツーリズム
3. コミュニティ・ベースド・ツーリズムの日本での展開に向けて

#### <付属資料>

- (1) 貴州省の民俗観光地と観光地ライフサイクル論
- (2) 曾士才教授インタビュー・メモ
- (3) ブータンに学ぶ観光開発の哲学 ―GNHとツーリズムの関係性についての一考察―
- (4) 参考論文・記事・文献



- 担当者 小林英俊、黒須宏志、相澤美穂子、緒川弘孝
- 編集者 小林英俊、緒川弘孝、山村高淑、石森秀三
- 頒布料 3,150円（本体3,000円）
- B5判 235ページ

## 温泉まちづくり研究会 提言集

# 日本の温泉地を元気にする 「温泉まちづくりの課題と解決策」

温泉まちづくり研究会は、わが国でも有数の温泉地（阿寒湖温泉、草津温泉、鳥羽温泉、有馬温泉、由布院温泉、黒川温泉）が一堂に会して共通の課題について語り合い、その方向性を探ることを目的に、2008年6月に発足。

「入湯税の有効活用」「環境負荷の少ない温泉地づくり」「歩いて楽しい温泉地づくり」「観光まちづくり組織と指定管理者制度」「温泉地における食の魅力づくり」について議論を重ねてきた。その他、当財団が開発した調査システムを活用した「来訪者満足度アンケート調査」を実施した。

本書は、研究会の第1ステージ（08～10年度）3年間の研究成果を、温泉地の方々が具体的なアクションを起こすヒントになるよう取りまとめたものである。

### 温泉まちづくり研究会 提言集

## 日本の温泉地を元気にする「温泉まちづくりの課題と解決策」

### 目次

#### はじめに

**提言1** 入湯税の有効活用 ～温泉地の観光まちづくりの安定的財源に！

**提言2** 環境負荷の少ない温泉地づくり ～“スマート・オペレーション”の積極的な導入を

**提言3** 歩いて楽しい温泉地を目指して ～“カーフリー温泉地”を一つの目標として

**提言4** 観光まちづくり組織と指定管理者制度について ～温泉地の魅力向上のための留意点とは

**提言5** 温泉地における食の魅力づくりを考える ～地域が一体となった取り組みの推進

■ 2009年度顧客満足度調査結果

#### <付属資料>

- 1 入湯税研究の概要
- 2 観光情報センター（着地型の観光情報発信）の事例集
- 3 温泉街循環バス事例集
- 4 カーナビ情報の改善（歩きたくなる温泉地を目指して）
- 5 温泉まちづくり研究会ホームページについて

● 価 格 非売品（お問い合わせください）

● 担 当 梅川智也、吉澤清良、岩崎比奈子、福永香織、後藤健太郎、通山千賀子

● A4判 58ページ



# 地域の“とがった”に学ぶ インバウンド推進のツボ

数多くの地域がインバウンドを推進する現状にあって、外国人旅行者の誘客をめぐる厳しい地域間競争を勝ち抜くのは簡単ではない。地域特性や強みを徹底的に磨き上げることで差別化を図り、旅先としての価値を高めている地域、すなわち“とがった”何かを持ち合わせている地域でなければ、その存在は埋没してしまう。

こうした点を踏まえ、“とがった”何かを持ち合わせている、規模や立地、資源などの面でそれぞれ異なる地域の事例をホームページで紹介するとともに、それら事例とともにそこから見えてくる地域によるインバウンド推進の“ツボ”を小冊子として整理している。

## ■当財団ホームページによる調査結果の公開

「インバウンド見聞録～外国人旅行者を惹きつける秘密を解く～」

[http://www.jtb.or.jp/investigation/index.php?content\\_id=329](http://www.jtb.or.jp/investigation/index.php?content_id=329)

## 地域の“とがった”に学ぶ インバウンド推進のツボ

### 目次

#### まえがき

#### 序—地域にはなぜ“とがった”が求められるか

- 1 岩手県八幡平市 安比高原
- 2 広島県広島市・廿日市市
- 3 群馬県みなかみ町
- 4 福岡県福岡市
- 5 北海道登別市
- 6 岐阜県高山市

#### 終—“とがった”の獲得に向けて

- 担当者 守屋邦彦・石黒侑介
- 頒布料 1,000円(本体953円)
- A5判 74ページ



## 地域の“とがった”に学ぶ インバウンド推進のツボ ②

### 目次

#### まえがき

#### 序—地域にはなぜ“とがった”が求められるか

- 1 広島県尾道市 ～愛媛県今治市 しまなみ海道
- 2 大分県宇佐市 安心院町
- 3 大阪府島本町 山崎
- 4 長野県山ノ内町 湯田中渋温泉郷
- 5 香川県直島町

#### 終—地域の“とがった”から見えてきたこと

- 担当者 守屋邦彦・石黒侑介・西川亮
- 頒布料 1,000円(本体953円)
- A5判 74ページ



# 海外旅行動向シンポジウム

## 第15回 海外旅行動向シンポジウム

### 時代の価値から考える 若者の海外旅行離れ

2010年度「海外旅行動向シンポジウム」の企画過程で得られた研究成果を、シンポジウム当日の採録と併せ、取りまとめて発行したもの。

研究を通じ、「若者の海外旅行離れ」は、社会・経済的な要因、メディア環境的な要因、若者意識の変化に見られる要因、旅行商品やガイドブックに起因する問題という4つの理由がそれぞれ関係し合い、複合的に作用して起きている現象だということが分かってきた。

新しいつながりに目覚めた若者が出現し、新しい移動の理由やスタイルを持ち始めていることに着目し、“時代を読む目”を持つ新たな提案が期待されている。

- 担当者 小林英俊、久保田美穂子
- 頒布料 2,000円(本体1,905円)
- A4判 80ページ



#### 目次

#### ◆シンポジウム 第2部 「世代論から見てきた“バブル後世代”の特徴」

(株)ジェイ・エム・アール生活総合研究所 代表取締役 松田久一氏

#### ◆シンポジウム 第3部 「ガールズマーケットの刺激策、教えます」

(株)F1メディア 代表取締役社長 兼 東京ガールズコレクション実行委員会チーフプロデューサー 永谷亜矢子氏

#### ◆考察 若者の“海外旅行離れ”を考える

(小林英俊)

#### ◆研究ノート 「東京ガールズコレクション」は創造的プラットフォームビジネス

(久保田美穂子)

1. 「東京ガールズコレクション」から学び、考えたこと
2. 変化するF1層を取り巻く情報源

#### ◆調査結果 ガールズマーケット旅行意識調査

1. グループインタビュー(旅行の位置づけ/旅行に求めるもの/魅力的な旅行とは など)
2. モバイルアンケート(旅行の頻度/行き先/目的/きっかけ など)

# 旅行動向シンポジウム

## 第19回 旅行動向シンポジウム

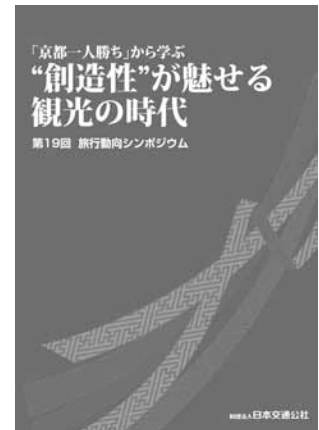
「京都一人勝ち」から学ぶ

## “創造性”が魅せる観光の時代

2009年度「旅行動向シンポジウム」の企画過程で得られた研究成果を、シンポジウム当日の採録と併せ、取りまとめて発行したもの。

なぜ京都だけが毎年観光客数を伸ばしているのか、そこから他の観光地、観光産業の活性化に役立つ普遍的要因の発見を試みた。

好調の仮説として、社会の価値観の変化、旅行者の意識変化、産官学あげて観光振興に取り組む京都市の施策、町家再生などによる新しいまちの魅力創出の4点を挙げて考察。特にこの10年ほどで目立って増えた町家再生店舗の魅力や意味に着目し、日本における新しいタイプの都市観光の出現が躍進の理由であると読み解いた。



- 担当者 小林英俊、久保田美穂子
- 頒布料 2,000円 (本体1,905円)
- A4判 52ページ

### 目次

#### ◆シンポジウム パネルディスカッション

「今なぜ京都だけが一人勝ち!? ～集まる<sup>わけ</sup>秘密を解く」

(株)時有人社 代表取締役・教授 元京都市観光政策監 清水宏一氏)

(株)ジャパンライフデザインシステムズ 代表取締役社長 谷口正和氏)

#### ◆研究論文 京都の躍進から学ぶこと ～新しい都市観光の出現

(小林英俊)

#### ◆研究ノート 私が見つけた京都人気の<sup>わけ</sup>秘密

(久保田美穂子)

#### ◆研究を終えて

(小林英俊、久保田美穂子)



## 第20回 旅行動向シンポジウム

# 「バーチャルとの融合」が創る新しい観光

2010年度「旅行動向シンポジウム」の企画過程で得られた研究成果を、シンポジウム当日の採録と併せ、取りまとめて発行したもの。

前年の「海外旅行動向シンポジウム」に続き、若者世代の価値観や旅行の意味に関する研究として、バーチャルなゲームをきっかけとして生まれる旅行現象に着目。事例として取り上げた携帯電話の位置ゲーム「コロニーな生活☆PLUS」では、実に深く人間の欲求を様々刺激し、実際の移動を起こさせるモチベーションを創っていた。

また、きっかけがこうしたゲームであっても、実際に移動してみれば地域の魅力に気づき観光を楽しみ、次の旅行へと広がるケースが多かった。

「バーチャルでも、動けば気持ちがついてくる」「バーチャルとリアルが融合するから新しいネットワークは活性化する」など、時代の変化に対応した、新しい観光・旅行の価値づくりのヒントとなる事例や考え方を集め、考察した。



- 担当者 小林英俊、久保田美穂子
- 頒布料 2,000円 (本体1,905円)
- A4判 50ページ

### 目次

#### ◆シンポジウム パネルディスカッション

「ソーシャルネットワークが拓く旅行の新たな可能性

～「位置ゲー」が仕掛ける“お出かけ”モチベーション」

(株)リクルート 執行役員／旅行カンパニー 飲食情報カンパニー カンパニー長

(株)ゆこゆこ 代表取締役社長 富塚優氏)

(株)コロプラ 取締役副社長 千葉功太郎氏)

#### ◆研究論文 ゲームから旅行・観光業界が学ぶこと

(小林英俊)

#### ◆研究ノート コロプラから生まれたお出かけ旅行に見るバーチャルとリアルの融合

(久保田美穂子)